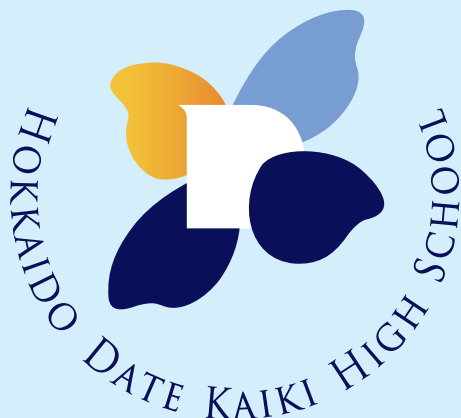


# 北海道伊達開来高等学校の 校章が決定しました！

問 再編新設校準備委員会事務局（伊達高校内 ☎23-2525）

伊達高校・伊達緑丘高校の生徒会有志からの「【開来】という新たな出発にふさわしいイメージ」という要望を受け、「世界を視野に未来を切り開く」という校名を表現した創造性あふれるデザインとしました。



デザインは、伊達開来高校の生徒たちが未来や世界に向かって羽ばたく「飛翔」を表現しており、中央の「D」（伊達開来）から、日に新たに「成長」する姿勢を花びらのような翼で表現しています。未来への期待や輝きをイメージした黄色は「新たな夢の実現」を、北の湘南の爽やかな空や海をイメージした青色は「まだ見ぬ世界への挑戦」を、日本有数の藍の生産地である伊達をイメージした紺色は「地域の信頼」を表現しています。

校章の制作においては、伊達高校の卒業生であるデザイナー太田岳さんの協力を得てデザイン開発に取り組み、再編新設校準備委員会の校長協議会において決定しました。



デザイナー  
太田 岳 Ohta Gaku

北海道伊達市出身、伊達高校卒業  
武蔵野美術大学、Art Center College of Design（L.A.）卒業  
帰国後、複数の企業のC Iデザイン、ロゴデザインを手掛ける。

## コメント designer comments

北海道伊達開来高等学校の顔づくりに参画できましたこと、伊達高校OBとして非常に光栄に思います。

新しい校章は、「未来」に向かって大きく「羽ばたく」イメージをデザインしました。

私はこの校章が広く皆さまに愛され、  
伊達開来高校の生徒の誇りとなり、  
未来に向かって共に大きく育っていく事を願っています。

## エンブレムとボタンのデザインも 決まりました。



エンブレム



ボタン

## 楽 画 記

- 大晦日に食べる「年越しそば」の習慣は江戸時代ごろから始まりました。そのころからそばには「1年の災厄を切る」という意味や「そばのように細長く、長生きできるように」という長寿の願いなども込められ縁起物とされてきました。今まであまり深く考えずに食べていましたが、今年は意味を思い出しながら食べてみようかなと思います。(き)
- お正月に家の玄関などに飾るしめ飾り。私が子どもの頃は、交通安全などを願ったものなのか、フロントグリルに小型のしめ飾りを付けた車がたくさん走っていました。お正月の風物詩だったのですが最近ほとんど見掛けなくなり、時代の流れを感じています。時は流れ「令和」も3年目。今年も広報だてをよろしく願います。(や)
- 市役所の私の席からは内浦湾の対岸に沈む夕日がよく見え、季節や天気によって毎日違った光景を見ることが出来ます。日の出や日没前後の、さまざまな色で空がきれいに彩られる時間をマジックアワーといいますが、日没直後に赤く染まり、黒い雲との迫力ある空が私のお気に入り。なんとかして写真に収めたいと思うものの、チャンスはなかなか来ず…(は)